

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	なぜか・どうしてかの正しい考え方
Author(s)	榎本, 当子
Citation	児童の言語生態研究 , 13 : 74 - 79
Issue Date	1988-03-15
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045148
Right	
Relation	



なぜか・どうしてかの正しい考え方

榎本当子

1. 授業案

一、日時 昭和六十一年二月二十八日(金)

午後一時五十分～午後二時三十五分

二、児童 練馬区立富士見台小学校

第三学年一組(複本級)

男子十七名 女子十六名(計三十三名)

三、領域 思考

四、授業テーマ 検証「なぜか・どうしてかの

正しい考え方」

五、教材 「きつねの写真」 あまん きみこ作

六、授業テーマ設定の理由

三年生は、生活の中で「どうして」を連発する時代である。何かに対して、ただその現象だけでなく、その原因をも知りたくなっているからである。しかし、反対に何かに対して「どうしてか」とたずねられた時に、はつきりと「こうである」と理由を言える子は少

ない。子ども達にとっての理由付けが、ただ漠然としたイメージに頼っているにすぎないからである。

真に原因(理由)を考えていくには、なによりまず、自分の頭の中を整理し、組み立てて行かなければならない。その組み立て方の一つとして、今回は、順序を追っていくこと、その場の事実と気分とを区別して考えていくことを身につけさせたい。

この「きつねの写真」の主題は、たった一枚あったきつねのうつつている写真を「これは、なかったことにしよう」と、そっと引き出しの奥にしまう山野さんの態度決定にある。山野さんはただ単に、きつねがかわいそうだからそっとしておこうとして、引き出しにしまった訳ではない。もともと、その写真をとるために山に行った山野さんが、「これはなかったことにしよう」と決めたのには、そうするだけの理由があったのである。つまり、たった二人で山に住んでいる松ぞうじいさんとび吉が、実はきつねだったことを知り

きつねからの悲しみと、それを越えて山野さんに示された好意を理解し、それにこたえようとしたからこそ、「なかったことにしよう」とするのである。この態度決定の理由を、一つ一つ解き明かしながら子ども達に検証させたい。順序を追っていくことで本当の理由が明らかになることがわかるはずである。また、そのことが、この物語を真に読むことにもつながるだろう。

七、指導計画

一、全文を通読し、あらすじをつかむ。〈一時間〉

二、山野さんの態度の決定理由を検証する。

三、感想を書く。〈三時間(本時一時間目)〉
〈一時間〉

八、本時の目標

「これは、なかったことにしよう」とした山野さんの態度の決定理由を問う。

九、本時の展開

学習活動
(指示と発問)

1. 本時のめあてを確
認する。
「今日の勉強は、な
ぜかどうしてかの考
え方の勉強です。そ
の材料として『きつ
ねの写真』を使うの
です。」
2. 例で、なぜか、ど
うしてかの考え方の
練習をする。
「その前に少し練習
をしましょう。まい
ごになったことのあ
る人は多いと思いま
す。では、なぜまい
ごになったのでしょ
う。」
3. 山野さんがきつね
の写真を、—これは
なかったことにしよ
う、とした態度の決
定理由を考える。
「山野さんはなぜ、
せつかくうつってい

指導上の留意点

- ・ 本時のめあてを知ら
せ学習に見通しを持
たせるようにする。
- ・ 板書カード①
なぜかどうしてか
を考える。
- ・ 数名指名し、なぜか
どうしてか考える時
には、
順じよをくずさ
ない。
(とばさない)
。事実と気分とを
区別する
ことをおさえる。
- ・ 板書カード②
- ・ 板書カード③
—これは、なかっ
たことにしよう。

たきつねの写真—
これはなかったこと
にしよう、としまっ
てしまったのでしょ
う。」

(1) どうしてか考えな
がら全文を通読す
る。

(2) どうしてか、理由
を発表し検証して
いく。

「カードめくりの
ように、一枚一枚
理由を確かめてい
きましょう。」

「事実の一枚目は
何でしょう。」

・ (以下同様)

(3) 山野さんの理由を
たどる。

4. 本時のまとめをす
る。

・ 理由になる部分に線
を引かせる。

・ 発表されたことを、
事実か気分か、順じ
よ(カードをめくっ
た枚数)が正しいの
か、確認しながら板
書していく。」

・ 順じよのちがうもの
に対しては、どこに
なるか考えさせる。

・ 板書をもとに、もう
一度確認させる。

・ 考え方の勉強をした
ことを確認する。

教材(教育出版三年下巻)

「きつねの写真」 あまん きみこ 作

大きな山のごんざ山に、松ぞうじいさんというきこ
りが、まごのとび吉とたった二人で住んでいました。

ごんざ山は、この二人のほかになだれも住んでいませ
ん。山のごんざ山は、もう、松ぞうじいさんしか知ってい
る人がいなくなっていました。

ある日、まごのとび吉が、町の人をつれて、小屋に
入ってきました。

「おじい、この人が、きつねの写真をとりたいたんだと」
松ぞうじいさんは、まゆをよせ、急にふきげんな顔
になってふり向き直りました、そして、言いました。

「さつきと帰りなせい。」

たずねてきたのは、山野さんという、まだわかい新
聞記者でした。山野さんは、いっしょうけんめいに言
いました。

「今度の日曜版に、きつねの特集をやるんです。それ
で、このごんざ山にはきつねがいるということす
ので……、その写真をとっています。」

そこまで聞くと、松ぞうじいさんの目に、なみだが
きらりと光りました。

「いねえ、いねえ。ごんざ山のきつねはいねえ。人間
にうちとられたり、病気にかかったりしてのう。」

山野さんは、それでもむりにたのみました。
「せめて、きつねのすんでいたあなだけでもいいです
から、写真にとつて帰りたいのですが。」

何回も熱心にそう言われて、松ぞうじいさんは、こ
まったように首をふっていました、やがて立ち上が
りました。そして、

「ついできなせえ。」

と、ひと言、言いました。

山野さんは、ほっとして、ペこっとおじぎをすると、松ぞうじいさんについて小屋を出ました。

松ぞうじいさんと山野さんは、しめったぞうき林の中に入っていました。はつかのようなすすしいにおいがしました。

——緑色のおいだな。

と、山野さんは思いました。下草のしだの葉をふみながらしばらく歩くと、やがて明るい広い草原に出ました。

その草原のまん中の方に、古い木の切りかぶが、いくつもないすのようにならんでいます。

「あの下をさがしなせえ。わしは、仕事があるだで。」

松ぞうじいさんは、ふしくれだった太い指で切りかぶの方を指してから、さつさと林の中にもどっていききました。

山野さんがよく見ると、かやの葉の緑にかくれるようにして、きつねのすんでいたらしい小さなあなが、あちらにもこちらにもあるのです。

「ほう、ほう、こりゃあ、いい。」

むねがわくわくしてきました。カチッ、カチッ。山野さんは、むちゅうでシャッターを切り始めました。

やつと写真を写すのをやめた時、ちようど、

「すんだかね。」

という声がありました。ふり返ると、もう、ちゃんと、松ぞうじいさんが立っていたのです。

「ええ、おかげさまで。」

と、山野さんが白いぼうしを取って礼を言いかけると、

松ぞうじいさんは、いかにもうるさそうに手をふってさえぎりしました。そして、そばのまつの木をとんとんとたたいて、

「とび吉、こっちへ、こっちへ。」

とよびました。

すると、あたりの木が、いっせいにざざつとゆれてよびました。

とび吉、こっちへ ころ

それから、林の木がこだまするようにじゅんじゅんにさけびながら、葉をゆすりだしたのです。

こっちへ ころ

こっちへ ころ

こっちへ ころ

「来たよ。」

おや、かわいい声。そこには、もう、小さいがぐり頭のとび吉が、にこにこしてそこに立っていました。

「なんぞ用かい？ おじい。」

松ぞうじいさんは、うなずいて、ふしくれだった手をちよつとかざすようにして、ちようど顔に当たっている夕日の光をさえぎりながら言いました。

「近道を急いで、ふもとの三本松まで案内するだ。山の日は、はようしずむで。」

それは、思いがけないほどやさしい声でした。「うん、わかっている。」と、とび吉がうなずいた時、山野さんは、向かい合った二人をパチリと写しました。

三日、すぎました。

ここは、東京のどまん中。新聞社の十一階です。午

後四時。

この時間の編集室ときたら、にぎやかすぎてうるさいほです。電話が鳴り、話し声がひっきりなしに近づいています。それに、足音まで重なります。

山野さんが、つくえに向かつて原こうを書いてると、けんぞう係の吉田さんが、小さな写真をたくさんおいてきました。ごんざ山で写した写真です。

さて、どれをえらぼうかと、山野さんは、一まいずついていねいに見始めました。そのうち、山野さんの目がまるくなりました。

「き、きつねの写真だ。」

向かい合った大きなきつねと小さなきつね！ 大きなきつねは、ひたいに手をかざしています。

「いったい、いつ写したんだ？」

しばらく見ていた山野さんの耳に「山の日は、はようしずむで。」と言った、松ぞうじいさんのしずかな声が聞こえてきました。

「そうか。たった二ひきだけ、のこっていたんだな。山野さんはうなずくと、引き出しのおくに、きつねの写真をそつとしまいました。

——これは、なかつたことにしよう。

たばこに火をつけました。そして、そのたばこのけむりを見ながら、

——あの二人に、おいしいものでも送ってやろう。どんなものをよろこぶかな。

2. 授業記録

(あいさつ)

T 今日「なぜか、どうしてかを考える」勉強をし

ます。よく、だれかが何かすると、「どうして」「なんで」って言うでしょ。そうするとみんなは一生懸命答えてあげているけれど、よく意味がわかる？

C わからない。

T なかなかうまく言えないことがありますね。これから、ほかの人にもちゃんと、なぜか、どうしてがわかるような言い方、考え方の勉強をします。そのために、「きつねの写真」を使うのです。

その前に考え方の練習をします。みんなの中で、まい子になったことのある人。

C ある。

T なぜ、どうしてまい子になったのでしょうか。

C₁ お兄ちゃん達が早く行っちゃうから。

T どうして早く行くとまい子になるのかな？

C₂ 人がこんでいて、お父さんやお母さんからはぐれちゃった。

T はぐれると、どうしてまい子になるのかな。

C₃ 人がいっぱいいるから。

T 人がいっぱいいると、どうしてまい子になるのかな？わからなくなってしまうでしたね。順序よく話せる人、いますか。

C₄ お母さん達がどこかへ仕事に行っている時とか

おもちゃ売り場にいる時、道みたいのがいろいろできていて、一つ間違えると、まい子になる。

T 小さな道がいっぱいあるとまい子になるの？

C₄ 道があったんだけど、いろいろ見ているうちに方向がわからなくなっちゃって、お母さん達がいる

方に行こうとして、わからなくなっちゃった。

C₅ 小さい時に、お母さんがデパートへ行って、ほか

るかと思ってお母さん達が別の所へうつっちゃってまい子になっちゃった。

C₆ うつりかわってまい子になった。うつりかわった

たつていうのは、そこに待っていて、急にどこかへ行

行って、もしかして、ほか、同じ洋服を着ていて

間違えたことがあるんだけど、他の人と間違えて、

うつりかわってまい子になる。そういうこと。

C₅ 玉造君はうつりかわるといったけど、それは入

れかわると言った方が、いいんじゃないですか。

Tu みんな聞いててね。じゃあ、お母さんはまい子に

ならないの。

C (わらい) ならない。

C₇ デパートで人が混んでいる時に、おしいへし

あいで、方向がわからなくて見失う。

T だからお母さんを見失ったっていうんでしょ。お

母さんはまい子にならないのかな。

C₈ お母さんも子どもがいないと迷う。

C₉ お母さんは、他の言い方でいうと、高木君なら

高木君をさがしていなくなる。

T お母さんはまい子にならないの？

C₁₀ 道を知っていればならない。

Tu 道を知っていればならないって言ったでしょ。お母さんをつかまえていけばまい子にならないの。お母さんをつかまえていない時は、いつもまい子になるのかな。自分一人の時は、いつでもまい子になるのかな。

C ならない。

Tu そうだろ。みんな今聞いていると、お母さんを見失った、お父さんを見失ったって言っているけれど、学校にいる時は、まい子になるの？そんなことは、

ないでしょう。道を知っていればまい子になりません。大事なことは、道を知らない時、方向を見失う時にまい子になるんだね。こちらから帰る道だつて知っていれば、まい子にならないね。お母さんの手をにぎっている時まい子にならないっていうのは、おかしいっていうの、わかったね。

T まい子になることをいろいろ言ってもらったけど大切なのはそのわけ。道がわからなくなったってわかれはいいのね。

これから考える時の約束です。(板書カードはる。)

みんなで読みましょう。

C 順序をくずさない。とばさない。事実と気分を区別する。(みんなで読む。)

T 一つ一つ順序を追って考えていきます。急にとば

ないようにしましょう。また、さつきは出なかったけれど、まい子になったわけを、さびしいからとか不安だからまい子になったって考えた人がいたら、それは気分です。さびしいとかは置いておいて、事

実はどうかということを考えること。この二つ(板書カードを指す)をよく考えながら「きつねの写真」を読んでいきます。

この前、少しみんなに問題出しましたよ。「これは

なかったことにしよう」はだれが言ったのですか。

C₁₁ 山野さん。

T そうね。なかったことにしようとして、机の中に写真をしまったのね。山野さんが机の中に写真をしまってしまったのは、なぜか、どうしてか考えます。

これからは、たしかめ算みたいにしていくのです。カードを一枚一枚めくって、一つ一つわけを考えていきます。先生が始めから読みますから、「ああ、

これがわけだ」って見つけたら、鉛筆で線を引いてください。(全文を読む。)

T それではこれから、どうしてかを順番にめぐっていきます。一番最初になかったことにしようと思めた、最初の事実は何でしょう。

C¹² 「山の日には、はようしむで」って、やさしい声で言ったから。

T それ、一番最初の事実かな。

C¹³ 大きな山のごんざ山に、松ぞうじいさんというきこりが、孫のとび吉とたった二人で住んでいた。T 松ぞうじいさん達が住んでいたら、どうしてなかったことにするの？一枚目じゃないですね。

C⁷ いね、いね、ごんざ山のきつねはいないっていつて、新聞にのせると、人間にうちとられたりするから。

T 一枚目よ。

C¹⁴ ごんざ山には、きつねはあと二ひきしかいないから、もしうちとられたらかわいそうだから。

T すごくいいこと言っただけど、事実と気分を分けて事実だけ言っつて。

C¹⁴ ごんざ山にはきつねが二ひきしかいないから。

T そうですね。一枚目のカードがめくれました。第一の理由は「二ひきしかいない」これですね。事実だね。(板書カードをはる。)なんだって思った人もいるかもしれませんね。じゃあ、二枚目の事実。二ひきしかきつねがいないと、どうしてしまっっちゃうんでしょ。

C¹⁵ 原田君が言っただけなのに、新聞にのせると、きつねをうちとられたりするから。

T これは事実ですか、気分ですか、(板書カードを

はる。)

C 気分。

T うちとられるんじゃないかっていう気分ね。二ひきしかきつねがいないと、なんで、どうして写真を公開しないんでしょう。事実。

C⁵ なんか、困ったように首を振っていたのに、無理やり写真をとらせてもらったから。

T 高木君もいいこと言っつてくれたけど、いろいろ入っているね。もう少し。

C¹⁰ 大きな山に、たった二人で住んでいました。T それも事実ですね。今ので近いの。この二つが結びつくためには、だからどうなの。

C⁴ ごんざ山には二人の他に誰も住んでいなかったから、きつねは残りたいから人間にばけた。

C⁵ 二ひきしかなくて、牛き残りたいから、新聞にのせたらわかつちやうから。

T それは、これと同じ(板書カード「うちとられるかも」気分ね。

C⁷ 二ひきしかきつねがいらないから、他の山にもいなくなつたら困るから。

T やっぱ気分ね。

C¹⁶ 山のことには、松ぞうじいさんしか知っていない。T いいですね。でも、なんで二ひきがいたのと関係あるの。知らせとけばいいじゃない。

C¹⁷ 松ぞうじいさんととび吉がきつねだったから。

T そうです。やつと出た。きつねが誰だったの。

C 松ぞうじいさんととび吉。

T 松ぞうじいさんととび吉がきつねだったから公開しないんでしょ。(板書カードをはる)次、三枚目。三枚目の事実です。どうして、二ひきしかいないき

つねが、松ぞうじいさんととび吉だったら、しまつておくの？

C¹³ 二人が、きつねだったことを新聞にのせたりしたら、またいろいろ広まって、さがしに来ちゃったりするから。

T さがしに来ちゃったりするのは気分ですか、事実ですか。

C 気分。

T これ、気分に入れておきましょう。この事実(二枚目のカード)に、気分がくっついています。(板書カードをはる。)

C¹⁴ 新聞に出すと、人がうちとりにきたりして、ごんざ山にきつねが一ひきもいなくなっちゃう。T 気分ね。気分としては？

C¹⁸ かわいそう。(板書カードをはる)

C¹⁰ 二人しかいない。

C⁵ 無理にたのんだから。

T 無理にたのんだのをどうしてくれたの？

C¹ ある場所を教えてあげようとしたから。

T 三枚目、出ました。

C⁹ ついてきなせえと、松ぞうじいさんが言っつた。T 教えてくれたでもいいけど、案内してくれたって言っつていいですね。(板書カードをはる。)ただ喜んで案内してくれたのかな？

C¹⁵ いやなのに、困つた様に案内した。

T ここまで事実。三枚目までカードめぐりができました。今まで事実を考えてきたから、気分を考慮してください。山野さんは、かわいそうだと思っついでしょ。かわいそうだからどうしたいと思っつていいのですか。

C5 かわいいそうだと思うから、助けたいと思ってる。(板書カードをはる)

T そうですね。じゃあ、かわいいそうだと思うから、なんで助けたいの？

C19 人間につかまっちゃうから。

T 人間につかまっちゃっていいじゃない。ごめんね。いじわる言ってる。でも、どうして助けたいの？

C20 新聞とかにのせると、きつねがいるのがわかって、その山に行つて殺されちゃう。

T なんで、殺されちゃうといやなの？

C21 山野さんがやさしい人だから、

Tu とつてもおもしろくなってきました。一つだけ助け船。なんでどうしてで、ここまで来たんでしょ。

先生は、何がしたいかっていうと、ここまではつたから、もう一つこつち(右)にカードをはらせたの。なぜなら、こつち(右)にはると、正解に近づくから。助けたい↓かわいいそう、人にとられるからつてやつたらもどつちやうでしょ。もどつちやだめなの。あともう一つ出るかなつて楽しみにしているの。

T あと、もう一つなのです。

C16 松ぞうじいさんは、無理にたのんだのに写真をとらせてくれたり、やさしい人だから。

T あともう少し。

C1 松ぞうじいさんは、本当は案内したくないのに案内してくれて、そのやさしさが忘れられなくて。

うちとられるのもかわいいし、裏切ることになるから

T いいですね。今聞いて、うれしくなってきました。

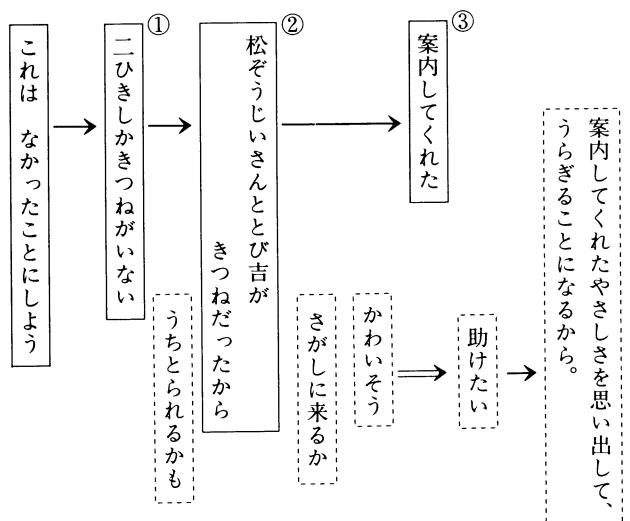
もう一度言ってください。

C1 本当は教えたくなかったんだけど案内してくれた、そのやさしさが忘れられなくて、もし出してしまうと、うちとられたりして、やさしさを裏切るこ

板書

なぜかどうしてかを考える

。順序をくずさない
(とばさない)
。事実と気分を区別する



とになるから。その親切が忘れられなくて。

C22 忘れられないんじゃないやなくて、思い出したい出して、裏切つてはいけないうつて。

T そうですね。一枚ずつカードをめくりながら、ここまでやってきました。(カードを順に読む)

これで、山野さんの気持ち、順序をおつて、事実と気分を区別して考えてきました。

Tu 大変よく勉強しました。先生方もお母さん方も、そんなとこまで考えられるつて、びっくりしておられるでしょう。誰が読んでも、どうして「これはなかったことにしよう」というと、それはきつねがかわいいそうだからつて言うと思うの。けれども、それだけじゃなかったでしょ。かわいいそうどころのことじゃないでしょ。山野さんがそうしなければならなかったわけでしょ。きつねにすまなかったのね。そうしなければ、親切にしてくれたことに対して、裏切ることになるつてね。

ものを考える時、誰でも「どうしてか、なぜか」つて言うの。でも、普通は事実も気分もごつちやにして、ポンと答を言うんだよ。それで、わからなくな

るの。今日みたいな方法で、事実と気分を区別して考えられると、こんなにわかるの、みーんな大人つていうのは、そうやって考えるんだよ。君達は覚えていかなきゃならないよ。

T よく勉強できましたね。(あいさつ)

T 榎本当子(新宿区立市谷小学校教諭)

Tu 上原輝男(玉川大学教授)